

第5章
小規模駅のモデルデザイン

[モデルデザインの前提条件]

ここでは、実在するJR東日本八高線金子駅の立地を計画条件として想定した小規模駅をモデルとしています。運営する鉄道会社や駅の構造は全く仮想のものです。

[1] 立地条件

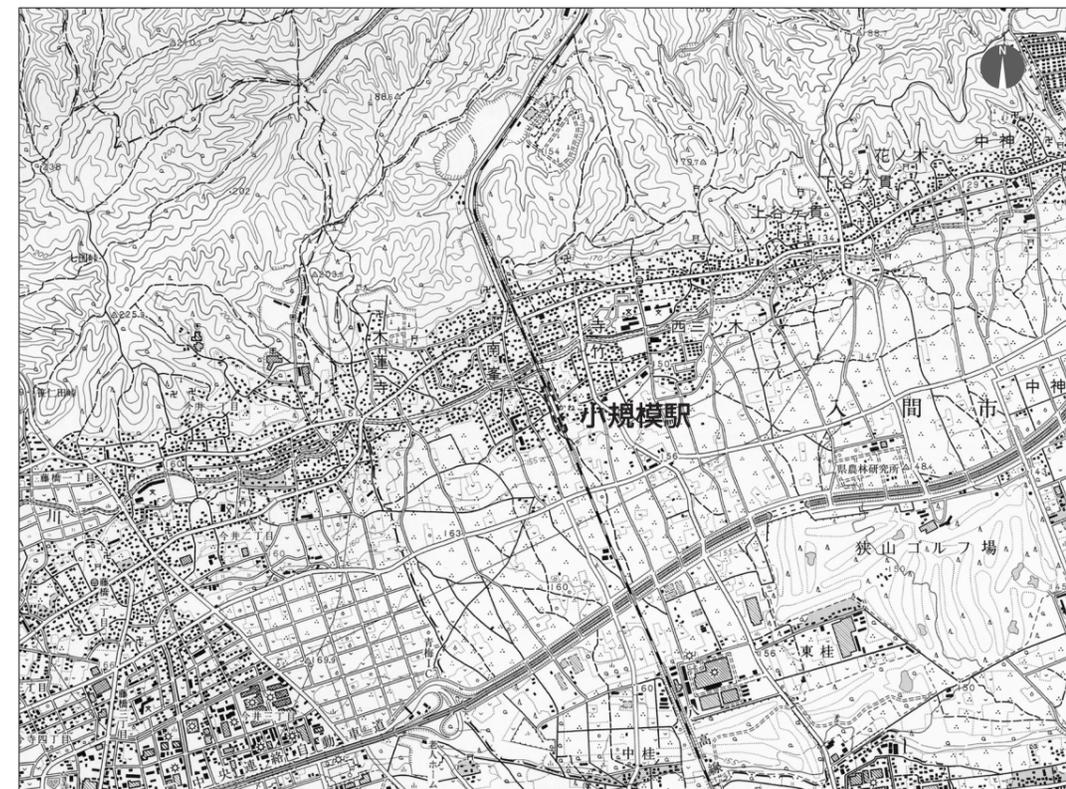
- ① このモデル駅は、東京都心から電車で1.5時間ほど離れた位置にある。
- ② 駅の南側は茶畑、駅の北側に1000余りの世帯が集まる地区中心がある。その北はところどころにゴルフ場が点在する丘陵地帯である。
- ③ 駅前にロータリーがある。

[2] 駅構造条件

- ① 駅舎は平屋1階建てのいわゆる地平駅である。
- ② 駅出入口を入ると待合所になっていて、切符売場のほか有人改札口がある。
- ③ ホームは相対式。下り線には跨線橋で連絡。その跨線橋にエレベーターが設置されている。

[3] アクセス交通の結節状況

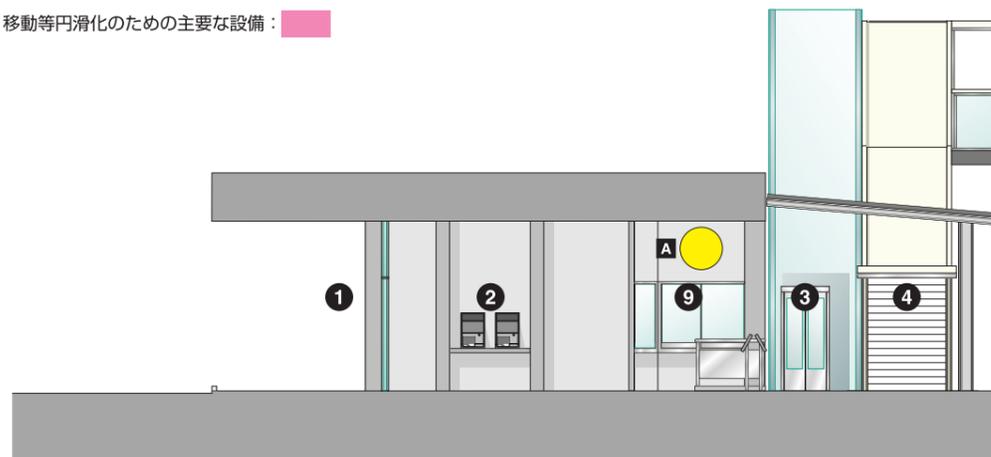
- ① 路線バスの当駅発着は1日1往復。ほかに大学スクールバスが運行されている。
- ② 駅入口(約270m先)にバス1路線、450m先の県道上にバスもう1路線。



5.1 動線から考える設備配置の考え方

■ 設備配置図

移動等円滑化のための主要な設備：



1 公共用通路との出入口

- 幅員90cm(180cm)以上とする

2 乗車券等販売所

- 券売機には高さ60cm程度の蹴込みを設ける

3 エレベーター

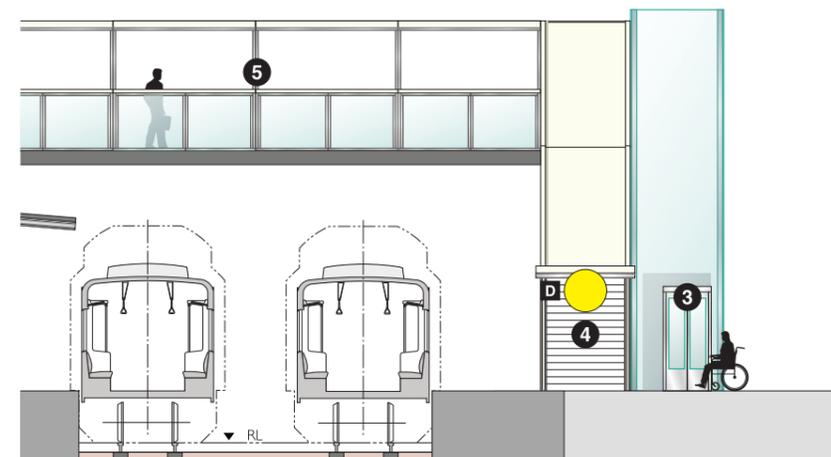
- 幅員80cm(90cm)以上とする
- カゴの内法幅は140cm以上、内法奥行きは135cm以上とする
- カゴと昇降路の出入口扉にガラス戸をはめ込むか、カゴ内外を相互に確認できる映像設備を設ける
- カゴ内に手すりを設ける
- 乗降ロビーの幅員は150cm以上、奥行きは150cm以上とする
- 乗降ロビーで到着するカゴの昇降方向を音声により確認できる

5 通路

- 幅員140cm(180cm)以上とする
- 十分な明るさを確保する

4 階段

- 幅員120cm(150cm)以上とする
- 蹴上げは16cm程度以下、踏面は30cm程度以上とする
- 踏面の端部(段端部)は明度等の工夫により、段を容易に識別できる



A-A' 断面図 Scale=1/150

6 トイレ

- 高齢者、障害者等の使用に配慮した多機能トイレを、利用しやすい場所に男女共用のものを1以上設置するか、又は男女別にそれぞれ1以上設置する

7 休憩設備

- 旅客の移動を妨げないよう配慮しつつ、主要な経路上に休憩のためのベンチ等を設ける

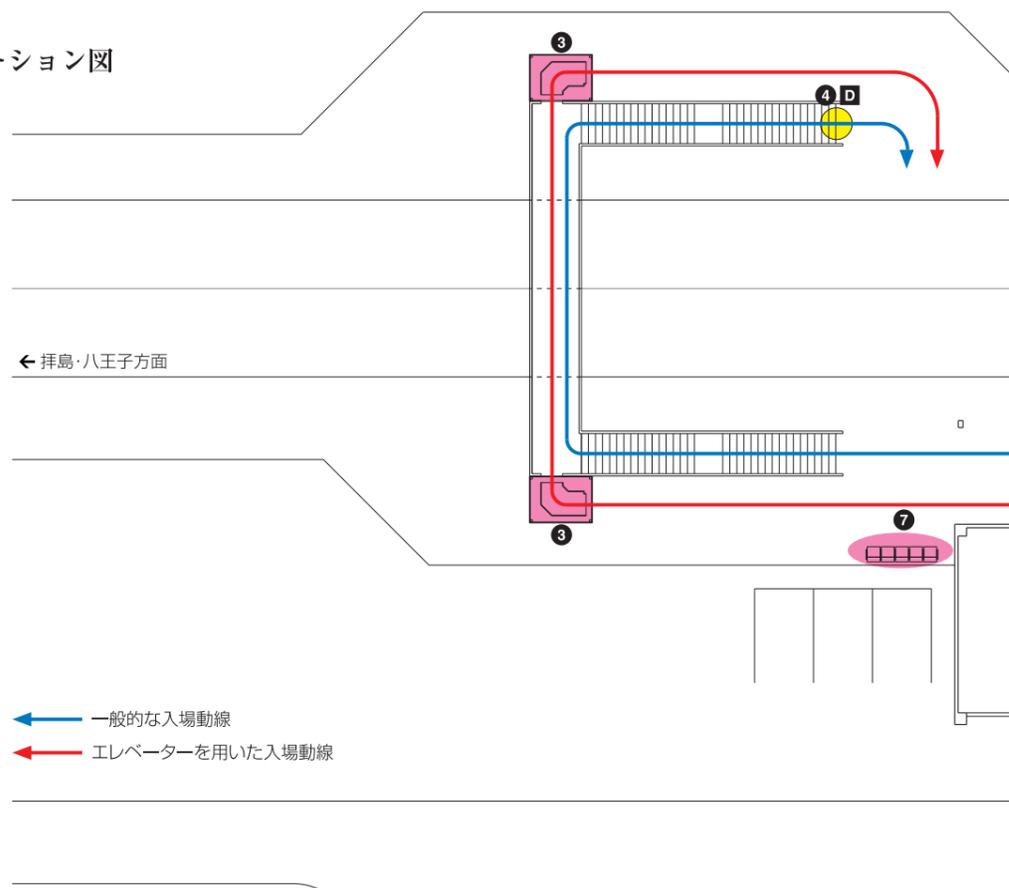
8 待合所

- 出入口の幅員は90cm以上とする

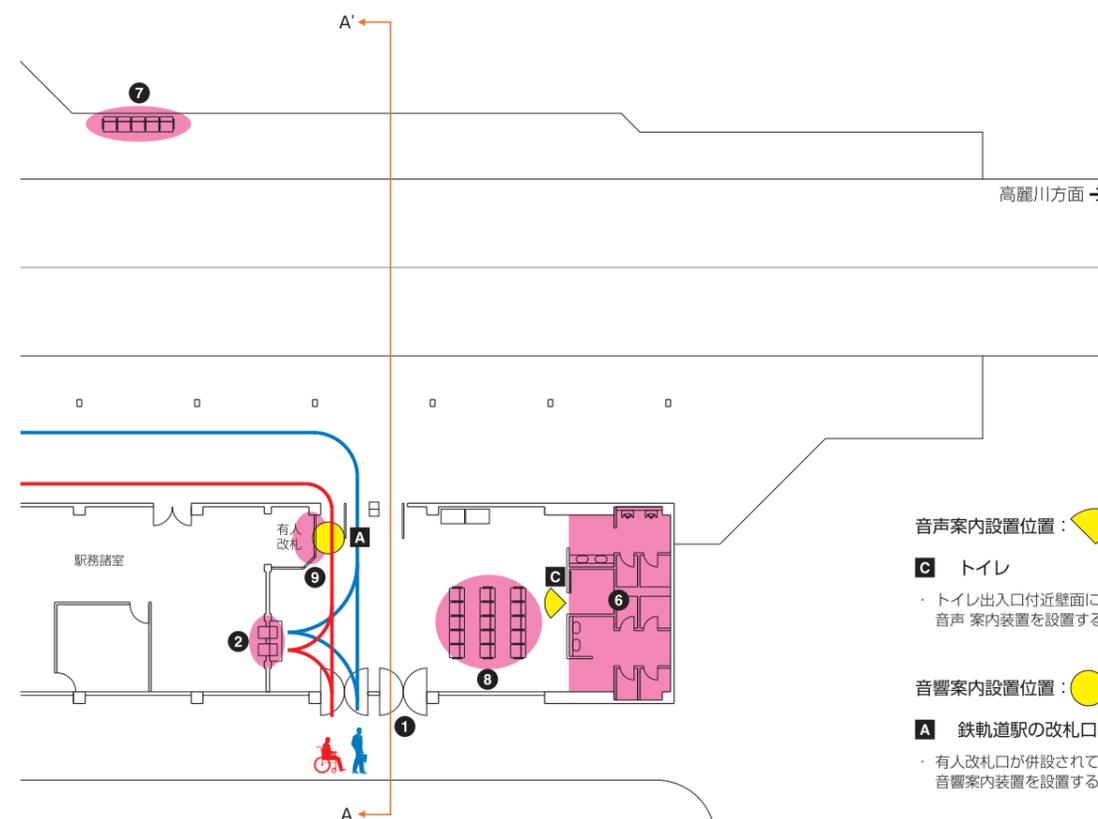
9 案内所

1~9: ガイドラインに示されている空間にかかわる標準的な整備内容 (括弧内は望ましい数値)

■ 動線シミュレーション図



← 一般的な入場動線
← エレベーターを用いた入場動線



音声案内設置位置：

C トイレ

- トイレ出入口付近壁面において、男女別を知らせる音声案内装置を設置する

音響案内設置位置：

A 鉄軌道駅の改札口

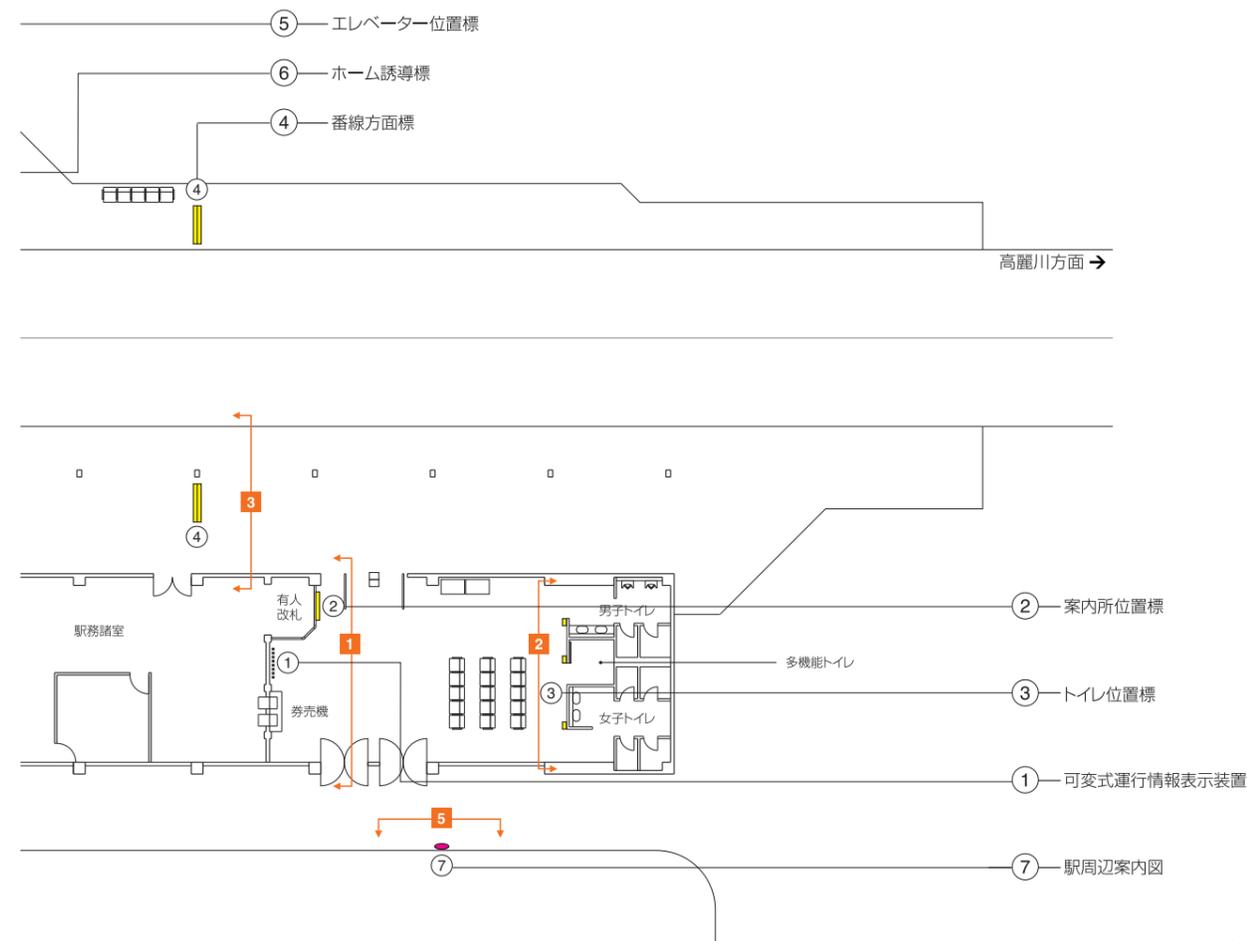
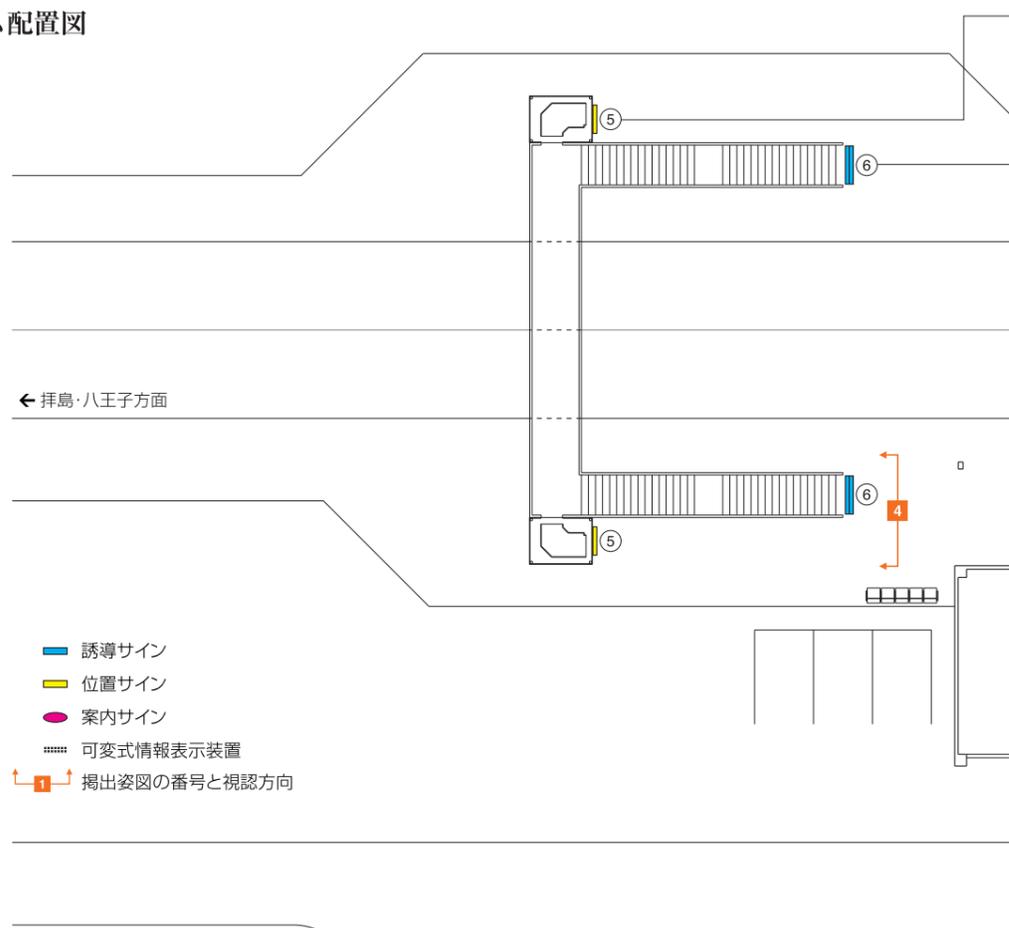
- 有人改札口が併設されている場合には、有人改札口に音響案内装置を設置する

D 鉄軌道駅のプラットフォーム上の階段

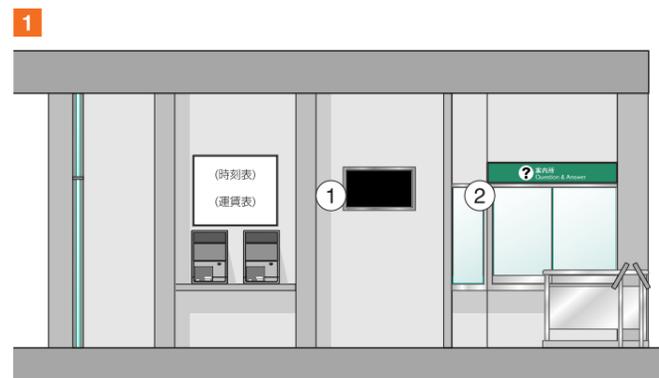
- ホーム上にある出口へ通ずる階段位置を知らせるため、階段始端部の上部に音響案内装置を設置する

5.2 サインシステムの配置計画

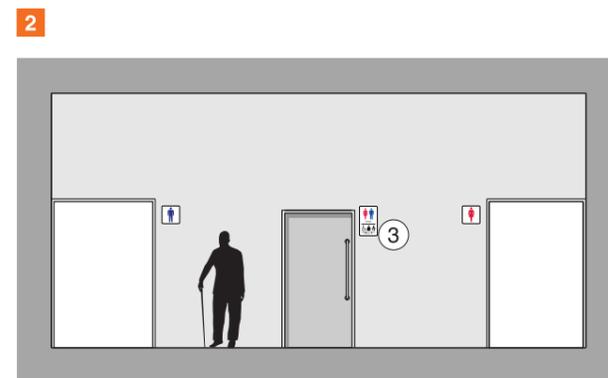
■ サインシステム配置図



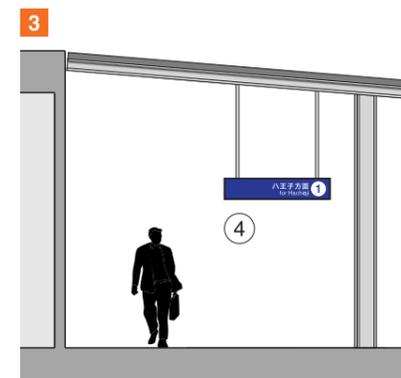
Scale=1/300



・改札口付近には可変式運行情報表示装置①、案内所位置に案内所位置標②



・トイレ入口には男子、女子、多機能トイレを識別するサイン③



・ホーム上のどこからでも確認できる位置に番線方面標④



・エレベーター位置にホーム行きエレベーター位置標⑤
・跨線橋の階段下にホーム誘導標⑥



・駅前広場に駅周辺案内図⑦

Scale=1/100